

3割が移行戸惑う声も

児童からは戸惑いの声も聞かれる。

(片岡 望)

春に運動会を開く松本市の公立校は昨年の6校から11校に増えた。松本市の寿小学校では、移行にあたって社会体育の大会との兼ね合いや、新年度が始まって間もないことによるクラスのまとまりへの不安などが課題となった。

児童たちは、練習日数が短いことに不安の声を漏らす。6年生の組み体操は昨年3月に練習を始めた。1組の深谷遥奈さんは「完成するか分からないが、全力で頑張るしかない」といい、6年生の長男がいる母親(38)は「なぜ急に、と驚いて、う気持ちよさや、運動会

た。熱中症は確かに心配だが」と話す。特に準備が大変なのは、入学して2カ月には満たない1年生だ。1年生の学年主任を務める渡辺美三子教諭は「年齢が低いほど半年の違いは大きい。その中で動きがそろ



は難しいものの、保護者へは1年以上前から説明をして了承を得られたという。横山はるえ教頭は「最初は戸惑いの声もあるが、慣れたら定着していくのではないかと話している。」

春の運動会は安曇小の24日に始まり、31日にピクを迎える。

本番に向けて組み体操の練習に励む寿小の6年生

ルピナに厚労大臣感謝状

被災地へ簡易風呂提供で

東日本大震災直後に被災地の宮城県石巻市 易風呂を設置し、1年



感謝状を受け取る市川会長(中)

半にわたって延べ1万5000人の被災者を温めた、松本市宮瀨2の設備業・ルピナ中部工業(柳沢健一社長)に15日、厚生労働大臣感謝状が贈られた。松

本市役所で伝達式が開かれ、武井保典健康福祉部長から同社の市川荘一会長に手渡された。

被災地へ提供された簡易風呂のアイデアは、米国のビニールプールに工事用大型ポンプ、発電機などを組み合わせた縦2・2m、横4・2m、深さ80cmの簡易風呂を作った。湯に浸かると精神的に落ち着くと好評で、風呂のある場所は

松本市梓川梓の柔道教室で平成20年5月、当時小学校6年生の沢田武蔵君(17)が松本市波田に投げ技をかけて重度の意識障害を負わせたとして、業務

「まだ復興というには早く5年間は関わり続けなければならない。(浅川寛子)

今も毎年社内で募金を集めて被災地に届けている」と話した。

現場を取り切った麻和真樹次長も同席した。同社は一昨年7月には石巻市の亀山紘市に感謝状を贈呈されている。(浅川寛子)

元指導者の有罪確定

梓川の柔道事故裁判

上過失傷害の罪で強制執行猶予3年(求刑・禁錮1年6月)の判決を受けた、元指導者の小島武鎮被告(41)は、控訴

期限の14日までに控訴をしなかった。検察官の指定弁護士側も控訴せず、判決が確定した。強制起訴事件で有罪判決が確定したのは全国で初めて。

公判は長野地裁で行われ、4月30日に判決が言い渡された。被告側は「沢田君の頭を直接畳に打ち付けていない」と主張したが、判決は「直接打撲した部分に限らず、無理な力が加わった部分に何らかの障害が発生することは十分に予見可能」として、被告の過失を認めた。

判決確定を受けて、沢田君の母親・佳子さんが、毎年個性取り進む女性刺戟を受けた生懸命になつていけたらと

と感慨深げに「一人一人があつて、生で話す姿に思まつ。」

「年を取って、人を育てることに、60歳人形

地域で活動するさまざまな団体を取材する機会がよくある。趣味の仲間とつくるサークルだつたり、公民館などの講座をきつかけに集まった団体だつたり、それぞれに特徴が見られる。日ごろの活動の様子や結成のきっかけを教えてください。

退職後の趣味に、と始めた歌が「今では生活に欠かせない」といふほど没頭する人、結婚を機に住み始めた土地で地元の人とつながるよりどころになった

「A見ん」

60歳人形